

目標	VIII	生涯にわたる学びの推進		
施策	25	学びを支える環境の整備		
主な取組		○ 「子ども大学」の充実に向けた支援		
		○ 多様な学習機会の提供		
		○ 人生100年時代に対応した学び直しの在り方の検討		
		○ 外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくり（再掲）		
		○ げんきプラザを活用した体験活動の充実		
		○ 地域学習の推進を支える人づくり		
		○ 障害者の生涯を通じた学びの支援		
		○ 県立図書館における県民のチャレンジ支援の充実		
		○ 新しい県立図書館の検討・推進		
担当課		特別支援教育課、生涯学習推進課		
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
生涯学習情報の発信 → 施策26参照				生推
「外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくり」モデル事業 → 施策24参照				生推
青少年げんき・いきいき体験活動事業	263	<p>青少年の豊かな人間性や社会性、自立心などを培い、豊かな感性を育むため、げんきプラザにおいて異年齢の子供や地域の大人、ボランティアなど多くの人々と交流する様々な体験活動事業を実施する。</p> <p>○いきいき体験活動事業：14事業 292人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野外活動やクラフト体験等の自然体験活動を通して、障害のある子とない子、指導者と参加者などが、交流を通して、心のバリアフリー化を目指す取組</li> </ul> <p>○わくわく未来事業：14事業 269人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の適応指導教室と連携し、登校に不安を抱える児童生徒を対象として、調理体験やレクリエーション等の集団活動を通して、社会性や自立心を育む取組</li> </ul> <p>○のびのびチャレンジ事業：13事業 203人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アスポート学習支援と連携し、経済的に困難な家庭の児童生徒に、体験活動を通して、協働して課題を解決する力を育む取組</li> </ul> <p>○多文化共生事業：6事業 249人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国にルーツを持つ児童生徒に、体験活動を通して、多文化の共生を図る取組</li> </ul>	<p>参加者アンケートからは、いずれの事業も肯定的な意見を得ることができ、豊かな人間性や社会性、自立心、豊かな感性の育成につながった。</p> <p>いきいき体験活動事業では、参加者同士の関わりを持てるプログラム計画や簡単に行える活動にすることにより、自然体験活動やスポーツ体験を通じた交流を図り、心のバリアフリー化を促進することができた。</p> <p>わくわく未来事業では、仲間と共にコミュニケーションを取りながら調理体験や自然観察、レクリエーション等の活動を行ったことにより、参加者や適応指導教室の指導員から肯定的な評価を得ることができた。また、通年で、広域適応指導教室へ自然体験の機会の提供や学習支援を行ったことにより、児童生徒との共感や信頼関係の構築につながることができた。</p> <p>のびのびチャレンジ事業では、ジュニア・アスポートに通う児童生徒及び支援員を対象に、人間関係づくりプログラムやオリエンテーリング等の体験を通して、参加者相互の交流やグループで協力しながら課題解決に取り組む内容にしたことにより、参加者や支援員から肯定的な評価を得ることができた。</p> <p>多文化共生事業では、外国にルーツを持つ児童生徒とその保護者を対象に、食文化やスポーツ等の多様なアクティビティを行ったことにより、外国文化に対する理解を深めるとともに交流を図ることができた。</p>	生推

			今後も、各事業のねらいを達成するために、十分な事前準備を行い、参加者との信頼関係を築いた上で、各げんきプラザの特色を生かした魅力あるプログラムを展開し、体験活動事業の充実を図っていく。	
共生社会の形成に向けた特別支援教育推進事業のうち 生涯学習支援アドバイザーの派遣 → 施策13参照				特教
県立図書館サービス充実・強化推進事業	4,161	<p>ビジネス支援サービスや健康・医療情報サービスの充実・強化を図るため、専門資料の収集やオンラインデータベースの整備を行う。また、市町村立図書館のサービス充実・強化を図るため、市町村立図書館職員向けの研修を実施する。</p> <p>○専門資料の収集やオンラインデータベースの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス支援関係資料327冊</li> <li>・健康・医療情報関係資料304冊</li> </ul> <p>○「ビジネス・ライブラリアン研修」の開催（オンライン1回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者数：市町村立図書館職員3人、県立図書館職員2人 計5人</li> <li>・受講者満足度：4.8/5 *</li> <li>・令和5年9月現在、31館でビジネス支援サービスを実施</li> </ul> <p>○「健康・医療情報サービス研修会」の開催（ハイブリッド形式・1回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者数：市町村立図書館職員63人、県立図書館職員2人、計65人（集合21人/オンライン44人）</li> <li>・受講者満足度：4.6/5 *</li> <li>・令和5年9月現在、41館で健康・医療情報サービスを実施</li> <li>* 研修参加者へのアンケート結果（5段階評価）</li> </ul>	<p>県立図書館・市町村立図書館におけるビジネス支援サービスや健康・医療情報サービスの充実・強化を推進することができた。</p> <p>県立図書館における専門資料の収集は、ビジネス支援サービス・健康・医療情報サービス共に令和4年度並みの冊数を受入れ、サービスを充実することができた。</p> <p>また、令和4年度と同様に充実した専門データベースを提供し、県内の知識・情報拠点としての機能を維持することができた。</p> <p>県民向けサービスとしては「情報の探しかた講座 健康・医療情報コース」の実施回数を増やすとともに、より高度な知識を身に付けたい方向けに応用コースを実施するなど、県民の情報リテラシーの支援を強化することができた。</p> <p>市町村立図書館職員向けの研修受講者の満足度はいずれも高く、県内図書館職員の資質向上にもつながった。</p> <p>課題としては、県民のニーズが高いと思われるビジネス、健康・医療情報は、より多くの市町村立図書館でサービスを提供することが望ましいが、積極的に展開している市町村は半数程度にとどまっていることである。</p> <p>サービスの実施を検討している市町村立図書館のスタートアップをフォローしていくため、研修の参加しやすさに配慮して会場を市町村立図書館とすることや、研修だけでなく、サービス事例等を積極的に紹介することも検討していく。</p>	生推
新県立図書館整備検討事業	3,692	<p>新たな時代にふさわしい県立図書館の整備に向けた検討を行う。</p> <p>令和5年度は、新たな時代に向けた県立図書館の役割や図書館像、必要な機能をまとめた「新埼玉県立図書館基本構想」を策定するため、県民コメントの実施など策定に必要な業務を行う。また、新たな県立図書館において不可欠なサービスであるデジタルライブラリーについて、他の都道府県における先進事例の調査を実施する。</p> <p>○県民コメントの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施時期 令和5年5月29日～6月28日</li> </ul> <p>○新埼玉県立図書館基本構想の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時期：10月</li> </ul> <p>○デジタルライブラリーの先進事例調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象：4自治体</li> </ul>	<p>県民コメントの意見を踏まえ、新たな時代を見据えた基本構想を策定することができた。また、新たな県立図書館において不可欠なサービスであるデジタルライブラリーの具体的な機能を検討する上で、参考となる他の都道府県における先進事例について調査することができた。</p>	生推

<p>施策指標の達成状況・原因分析</p>	<p>●1年間に生涯学習活動に取り組んだ人の割合(%) [出典: 埼玉県県政サポーターアンケート]</p>  <p>【原因分析】          令和4年度から3.5ポイント減少し、最終目標値を下回った。          令和5年度のアンケートにおける「生涯学習活動をしなかった理由」という質問に対して、前年度と比べて「他に優先したいことがある」という選択肢が3.6ポイント、「理由は特にない」という選択肢が7.3ポイント増加した。          令和5年度に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことによって、今まで自粛されていた旅行などの様々な活動が再開され、生涯学習を行う時間が減少したものと推察される。          今後は、生涯学習の必要性(リカレント教育やリスクリング)について、生涯学習ステーション等により県民に発信し、生涯学習の推進に努めていく必要がある。</p> <table border="1" data-bbox="443 496 1106 587"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>● 割合</td> <td>67.7</td> <td>67.9</td> <td>69.8</td> <td>67.8</td> <td>69.8</td> <td>74.6</td> <td>71.1</td> </tr> <tr> <td>●●● 年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>69.0</td> <td>70.0</td> <td>71.0</td> <td>72.0</td> <td>73.0</td> </tr> </tbody> </table>		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	● 割合	67.7	67.9	69.8	67.8	69.8	74.6	71.1	●●● 年度目標値			69.0	70.0	71.0	72.0	73.0	<p>生推</p>
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																			
● 割合	67.7	67.9	69.8	67.8	69.8	74.6	71.1																			
●●● 年度目標値			69.0	70.0	71.0	72.0	73.0																			
<p>学識経験者の意見・提言</p>	<p>コロナ後、徐々に事業が再開される中、本施策の指標である「1年間に生涯学習に取り組んだ人の割合」が、前年度から減少し、目標値を下回ったことは残念だった。人々のニーズを抽出し、それに応じた事業自体は相応な形で展開されているからこそ、その減少を詳細に分析する必要があるだろう。その一つとして、コロナ後にそれまで自粛していた旅行等の活動が再開されたことにより生涯学習を行う時間が減少したという分析が示されていたが、例えばそれが特定の年齢層や地域、事業内容等に顕著なものなのか、それとも全般的なものなのか等、把握していくことが期待される。</p> <p>1年間に生涯学習活動に取り組んだ人の割合は昨年より低下したが、コロナ明けで様々な活動を再開したため時間がなくなったとの理由は理解できる。ただし、働き方改革が進み勤労者でも自由な時間が増加することから、本施策である生涯学習のできる施設の整備やコンテンツ拡充の必要性は高まっている。また学校以外での様々な体験活動は、コロナ禍での行動制限を受けていた子供たちにとっては、貴重な経験となるため拡充をしていただきたい。</p>																									
<p>今後の取組</p>	<p>生涯を通じてスポーツ、文化芸術などの様々な機会に親しみ、豊かな人生を送ることができるよう、特別支援学校の児童生徒が生涯学習に取り組むきっかけを作るため、引き続き、生涯学習を実践している卒業生や地域のパラアスリート・芸術家等を学校に招いて講演や実技指導を行う「生涯学習支援アドバイザー事業」を実施し、障害のある子供たちの生涯学習を推進していく。</p> <p>引き続き県民へのアンケート調査を実施し、生涯学習に対するニーズを把握するとともに実態を分析していく。また、「生涯学習ステーション」による更なる情報発信に努め、勤労者や子供たちを含めた幅広い県民の生涯学習活動を支援していく。</p> <p>げんきプラザにおいては、引き続き各げんきプラザの特色を生かした魅力あるプログラムを展開し、体験活動事業の充実を図るとともに、他機関と連携・協力した事例の共有を図る。</p> <p>県立図書館においては、引き続き県民の課題解決支援サービスの更なる充実を図る。また、ビジネス支援、健康・医療情報サービス事例等の積極的な共有により、市町村立図書館におけるサービス実施のスタートアップをフォローし、全県的な課題解決支援サービスの展開を推進する。</p> <p>新県立図書館の検討については、基本構想やデジタルライブラリー先進事例調査を踏まえて、具体的なサービス内容の検討を進める。また、地域資料のデジタル化を進め、デジタルアーカイブの充実を図る。</p>	<p>特教</p> <p>生推</p>																								

目標	VIII	生涯にわたる学びの推進																									
施策	26	学びの成果の活用の促進																									
主な取組	○ 学びの成果の活用の支援																										
	○ 「子ども大学」における学びの成果の活用																										
	○ 社会教育関係団体等をつなぐネットワークづくり																										
	○ 学びを活用した地域課題解決への支援																										
担当課	高校教育指導課、生涯学習推進課																										
主な事業																											
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課																							
生涯学習情報の発信	0	<p>県民の生涯学習活動の支援及び充実のため、生涯学習情報発信サイト「生涯学習ステーション」により、指導者やイベント、講座などの情報を提供する。</p> <p>○情報提供の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者登録数：348人</li> <li>・イベント掲載数（令和5年度実施イベント）：976件</li> <li>・指導者紹介数：49件</li> </ul> <p>○アクセス数：134,150件</p>	<p>令和5年度の1月末時点の「生涯学習ステーション」へのアクセス数が、令和4年度の同じ時期と比較し5,000件程度増加していることから、情報発信が県民の生涯学習活動の支援・充実につながったと考える。</p> <p>一方で、学んだ知識・技能や経験等を生かす場が効率的に見つけられるよう、新たなデジタル技術の活用の視点も含め、引き続き「生涯学習ステーション」の機能拡充を検討する必要がある。</p>	生推																							
越境×探究！未来共創プロジェクト → 施策2参照				高指																							
施策指標の達成状況・原因分析	●生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験等を地域や社会での活動に生かしている人の割合（%） [出典：埼玉県県政サポーターアンケート]																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>28.8</td> <td>26.8</td> <td>28.2</td> <td>23.9</td> <td>24.6</td> <td>22.3</td> <td>21.4</td> </tr> <tr> <td>年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>29.8</td> <td>30.6</td> <td>31.4</td> <td>32.2</td> <td>33.0</td> </tr> </tbody> </table>			H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	割合	28.8	26.8	28.2	23.9	24.6	22.3	21.4	年度目標値			29.8	30.6	31.4	32.2	33.0	<p><b>【原因分析】</b></p> <p>令和4年度と比較して0.9ポイント減少した。</p> <p>「この1年間で生涯学習活動をした」割合についても、前年度と比較して3.5ポイント減少しており、この割合と連動して減少しているものと考えられる。</p> <p>上述の連動から、まずは生涯学習活動を実施している割合を回復させる必要があり、生涯学習の意義（リカレント教育やリスキリング）について、県民に発信していく必要がある。</p>
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																				
割合	28.8	26.8	28.2	23.9	24.6	22.3	21.4																				
年度目標値			29.8	30.6	31.4	32.2	33.0																				

学識経験者の 意見・提言	<p>本施策の事業である、情報発信サイト「生涯学習ステーション」は非常に充実した内容になっており、各方面に対して配布・周知されていた情報が分かりやすく集約されていると感じた。そういった情報発信の工夫・努力にもかかわらず、指標が目標値から遠ざかってしまったことは残念である。施策25の分析にも表れるように、コロナ後の活動の場の拡大・多様化により、「生涯学習に取り組む」人数が減ってしまったことは否めないが、「学んだことが生かされている」と実感できる取組の工夫も期待される。一方で、生涯学習に取り組んだこと自体に対する満足感も一つの指標足り得るようにも思われる。</p>	
	<p>「生涯学習ステーション」へのアクセスが増加していることは、情報発信の効果が表れていると思われる。</p> <p>コロナ終息後は、人手不足が顕著となっており、シニア世代にも活躍が期待されているため、リカレント教育やリスクリングの重要性はより高まっている。生涯学習の必要性を広く発信し、現役世代だけでなくシニア世代も学び続け、その知識を活用できるよう啓発を進めていただきたい。</p>	
今後の取組	<p>越境×探究プロジェクトに関して、事業によって培われた各企業とのつながりを今後も継続し、地域の企業・自治体と連携した探究的な学びが地域課題解決の糸口とできるよう、キャリア教育等で活用していく。</p>	高指
	<p>「生涯学習ステーション」に掲載するイベント情報を拡充するとともに、生涯学習の意義や必要性、「学んだことを生かしている」具体的な場面について発信することで、現役世代やシニアを含めた幅広い県民への生涯学習の支援及び学習成果活用の促進に努めていく。</p>	生推